SFRR Japan NEWSLETTER

June 1, 2017

法人化へ本格始動

法人会化準備進捗状況

法人会準備委員会　委員長　豊國　伸哉

すでにご報告申し上げております通り、本会は任意団体から法人へのスムースな移行図るべく準備委員会を立ち上げ、鋭意作業を進めております。

形態としては、比較的簡単な手続きで設立でき、行政の監督も受けない、学会のような形態に向く制度であると言われている**一般社団法人（非営利型）**を目指す予定です。

定款や諸規則、組織、運営方法、会計などは関連法令等にあわせて見直しが必要ではありますが、会員皆さまへの理解を得やすいように、また、新法人への移行をスムーズに行うため、現行の会則や組織・運営方法などを可能な限り踏襲し、現行の会員は希望が特になければ、そのまま自動移行を予定しております。法人設立に合わせて、任意団体としては一旦解散という形態をとりますが、その大部分を引き継ぐ事となります。

一般法人法に則っての運営が必要となるため、総会の手続き、成立条件、議決方法の基本として、代議員制度を取る、理事会/監事を置く方向で予定しております。その詳細については、理事会にて十分に議論を重ね、随時ご報告予定です。

今後の予定としては、一般社団法人日本酸化ストレス学会は、2018年4月設立を目標とし、2018年6月には社員総会を開催し2018年度の事業計画・予算決算の承認を目指しております。

定款（案）や今後の詳細については、理事会での決議を踏まえて、2017年度総会において会員各位の承認をお願いする予定ですので、忌憚のないご意見をいただけましたら幸いです。

法人になるとどのような良いことがあるの？

(1) 学会の社会的信用を高める。法に定められた法人として運営することにより、組織の基礎がしっかりするため、任意団体と比べて社会的信用が増す。

(2) 学会名で法律行為（契約、雇用、売買、貸借）が行えるようになる。任意団体では銀行口座の開設など対外的な契約を学会長個人名で行わなければならない。法人化すれば、責任が会長から理事に分散し、学会が行う行為や構成員の責任・義務が法的に明確な状態で運営されることになる。

(3) 国、地方自治体、法人などと契約により委託事業や共同研究が可能となる。

＊一般会員・学生会員・名誉／功労会員・賛助会員の場合は、特別な手続きは基本的に不要の予定です。

2017年度日本酸化ストレス学会総会は以下の通り開催予定です。

日　時：2017年6月28日（水）13:00-13:30　（予定）
会　場：つくば国際会議場　中ホール300
※詳細は当日配布の抄録集をご覧ください
〒305-0032　茨城県つくば市竹園2丁目20番3号
https://www.epochal.or.jp

是非ご出席ください。

◇◇◇　年次学術集会案内　◇◇◇

第70回日本酸化ストレス学会学術集会

日　時：2017(平成29)年6月28日(水)～29日(木)
会　場：つくば国際会議場
（〒305-0032　茨城県つくば市竹園2丁目20番3号）
https://www.epochal.or.jp
ホームページ：http://www.sfrrj2017.org/home.php

開催のご挨拶

第70回日本酸化ストレス学会学術集会
会 長：長崎　幸夫
（筑波大学数理物質系・教授）

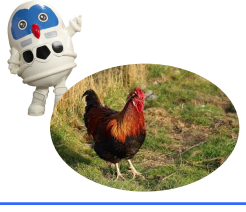
いよいよ記念すべき第70回酸化ストレス学会学術集会の開催となりました。今回は茨城県、つくばの地で開催させて頂きます。

今回の大会では再生医療の世界的第一人者、京都大学田畑泰彦教授、筑波大学泌尿器系教授西山博之教授をお招きし、第一線のご講演をお願い致しました。また、「運動と酸化ストレスと健康の関係を考える」（筑波大学大森肇教授）、「慢性炎症と酸化ストレス」（筑波技術大平山暁教授）という二つのシンポジウムを計画し、酸化ストレスに関して考えてみたいと思っております。教育講演では英語プレゼンの仕方や良い発表資料の作り方、良い動画作成への導きなど、プレゼンテーションを魅力的にする様々な方法を紹介する講演を通して、科学者・技術者のアピール力向上に大いに役立つコツを伝授します。朝の酸化ストレススクールも企画しておりますので、つくばの地にお泊まり頂き、朝から夜まで堪能して頂ければと思っております。もちろん一般講演やポスターセッションなどで議論を盛り上げたいと思っております。懇親会でのうまい酒や日本一の出し物など、こちらもご期待下さい。

古くから多様な文化が形成されてきた茨城県においてつくば市は、1970年代の研究学園都市の建設を契機に科学万博を経ていま、最先端の科学技術拠点へとめざましい発展をとげてきています。その意味では土浦や日立に比べていささか歴史的な深みに欠けましょうか？薩摩(第68回大会)や仙台(69回大会)を経て、「なんだ、つくばかよ。」って思われるかも知れません。

いやいや、歴史的にはかなわないかも知れませんが、宇宙センター、つくばエキスポセンター、地質表本館など、多くの研究所や新旧融合した町並みは必見です。

地元を大切にし、県外に殆ど出回らない「霧筑波」を筆頭に、素晴らしい日本酒がそろっております。奥久慈シャモ、つくばアイスバインなど、他で手に入らない「あて」をつまみに、酸化ストレスを語りながらいっぱいいかがでしょうか？



◇◇◇ 次期年次学術集会案内 ◇◇◇

第71回日本酸化ストレス学会学術集会
日 時:2018(平成30)年5月17日(木)～18日(金)
会 場:京都ホテルオークラ (〒604-0924 京都市中京区
河原町通二条南入一之船入町537-4)
http://okura.kyotohotel.co.jp

開催のご挨拶

会 長: 内藤 裕二
(京都府立医科大学消化器内科准教授)

このたび、第71回日本酸化ストレス学会学術集会の会長を務めさせていただくことになりました。

今回の学術集会は特別な事が2点ございます。ひとつは、「一般社団法人日本酸化ストレス学会」として初めて開催される学術集会であると言うことです。このニュースレターのTop Pageにもありますように、色々な制約はあるものの、学会としての社会的信用を高め、新たな一歩を踏み出すということには非常に意義があると考えています。ふたつ目は日本NO学会との合同開催を検討しているという点です。NO学会は異分野と言うよりは同系列の学会になります。お互いに影響し合うフリーラジカルのように「素敵な反応」が起こることを期待しています。本年の理事会で討議予定ですので、このニュースレターを読んでいただいている頃には、結論が出ているかと思います。

会期中は両学会の合同シンポジウムだけではなく、日本酸化ストレス学会独自のシンポジウムも設けたいと考えています。そのため、日本酸化ストレス学会評議員からシンポジウムの提案をおこなっていただき、プログラム委員会を結成し、魅力あるプログラム構成とする予定です。

会場の京都ホテルオークラは繁華街から徒歩圏内で、アベックが集う鴨川にも近く、出町柳の豆餅店、老舗の珈琲店、世界遺産の神社、雑多なバーなど、あらゆるところに徒歩で、あるいはバス一本で行くことができます。5月後半の京都開催ですが、盆地の京都は既に蒸し暑い季節になっております。観光もお楽しみいただきたいのは山々ですが、是非とも外気に負けない蒸し暑いディスカッションでヒートアップしていただけると幸いです。どうか、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

🍀🍀🍀 各賞も例年通り予定されております。🍀🍀🍀

応募方法

1)学会賞・学術賞:年に1度公募(1-2月頃) 。応募条件を確認の上、所定の応募書類を整えて、事務局まで。
学会HPよりダウンロードして下さい。 http://sfrrj.umin.jp/award.htm

2)学術奨励賞: 年次学術集会開催時に公募。演題応募と同時にお申し込み下さい。詳細は、年次学術集会のご案内をご確認下さい。

＊会員歴にご注意ください。応募出来るのは3年以上となっております。次年度応募出来るのは、2016年以前のご入会の会員となります。若手研究者の方は、早めのご入会をお薦めいたします。

3)八木記念学術奨励賞: 応募不要。学会オフィシャルジャーナルにおいて、前年度に第一著者として受理された論文の中から選考委員会にて選出されます。

＊JCBNの投稿は、役員推薦の時にも必要条件となっております。投稿料の会員割引も設定されていおりますので、是非多数のご投稿をお願いします。

法人化にともない応募要領に変更が生じる可能性がありますので、詳細は学会HPにてご確認ください。

次回SFRR Asiaは下記の通り予定されております。

＊日程が変更されておりますので、ご注意ください！

The 8th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia (SFRR-Asia) & The 14th Conference of the Asian Society of Mitochondrial Research and Medicine (ASMRM):
The Cross talk between Free Radicals and Mitochondria in Health and Disease

Date: September 8-11, 2017
Venue: Xi'an Nanyang Hotel(Conference Place)
Address: No.1 Xingqing South Road, Beilin District
Xi'an, China
Tel: +86 29-87665566
Website: http://www.jdnyhotel.com/index.php/

Organizing Committee:
Chair: Jiankang Liu
Co-Chairs: Yang Liu, Chin-Shan Liu

Abstract submission deadline: August 25, 2017
Further information:
http://8sfrr-asia14asmrm.csp.escience.cn/dct/page/1

SFRR Asia ならびに 日本酸化ストレス学会 各種Award
現在、下記の通りのアワードが予定されております。応募詳細は会期が近づきましたら、学会HPに掲載予定です。是非沢山の応募をお待ちしております。

SFRR Asia Travel Award 2名
SFRR Asia Young investigator Award 6名程度
SFRR Japan Young investigator Award 5名程度

各々、賞状ならびに副賞(賞金等)が授与されます。演題応募する若手研究者は是非ご応募ご予定下さい。詳細は学会HPへ。
→ http://sfrrj.umin.jp

◇◇SFRR国際組織の下部組織とは？ ◇◇

日本酸化ストレス学会は、
英文名称を Society for Free Radical Research Japan とし、Society for Free Radical Research (SFRR)のアジア支部の一つです。
SFRR Internationalは
・ヨーロッパ地区 Society for Free Radical Research Europe
・アメリカ地区 Society for Redox Biology and Medicine (SFRBM)
・オセアニア地区 Society for Free Radical Research Australasia
・アフリカ地区 Society for Free Radical Research Africa
・アジア地区 Society for Free Radical Research Asia

の4つの地区から成り立っています。アメリカ地区のみ、SFRR という名称ではなく、SFRBMという略称を使っています。2年に一度持ち回りで、国際学会を開催しており、アジアでは、2014年に日本酸化ストレス学会が主催で京都にて開催されたのは記憶に新しいと思います。次回は、2020年にアジアに再び順が回ってくる予定で、その開催地を検討中です。

更に、SFRR Asiaは、インド、中国、韓国、日本、マレーシア、タイ、台湾の7つのregionから組織されています。こちらも2年に一度の持ち回りで国際学会を開催しておりますが、SFRR Internationalとは入れ違いの年度となる事から、毎年いずれかの国際学会が開催される事となっています。

上記とはまた別に、SFRR Australasia と日本酸化ストレス学会のJoint Meeting (SFRR A+J)を2年に一度開催されます。

いずれの会も日本酸化ストレス学会の会員であれば、全ての会において会員として参加可能です。会員価格での登録や雑誌の購読、各賞への応募など、会員特典を利用できますので、是非ご確認下さい。

◇◇◇ 学会レポート ◇◇◇

【第23回SFRBM/SFRRI 2016に参加して】

Joint Meeting of Society for Free Radical Biology and Medicine (SFRBM) and Society for Free Radical Research International (SFRRI)

会期:November 16-19, 2016
会場: Hyatt Regency Embarcadero Hotel ,
San Francisco, California USA

陶山　遥介
（京都府立医科大学　消化器内科）

平成28年11月16日～20日に米国サンフランシスコで開催されました23rd SfRBM/SFRRIに参加しました。当教室からは内藤裕二先生、半田修先生ら5名が参加し、間嶋淳先生と私、陶山がそれぞれポスター発表を行いました。

サンフランシスコは四方を海で囲まれ、古くからの街並みも美しい米国人にも人気の観光地であります。学会の合間には街中を散策。サンフランシスコ湾沿いのフィッシャーマンズ・ワーフで食べ歩きを堪能し、ケーブルカーに乗りながら見たサンフランシスコの街並みはなかなかの絶景でありました。また夜のユニオンスクエアの街並みは時期的にちょうどクリスマス前でもあり、最もアメリカらしい華やいだ雰囲気を感じることができました。

学会会場となったHyatt Regency San Franciscoは中心街へのアクセスが良く、海沿いに位置したベイブリッジを望める素晴らしい立地でありました。そして学会はというと、初日からメイン会場ではワークショップやプレナリーセッションなどにおいて口演45題が発表され、活発な議論が繰り広げられました。フリーラジカルについて、それほど知識がない若手にもSUNRISE FREE RADICAL SCHOOLなるものがあり、教育的な配慮も為されておりました。一方、ポスター発表会場では、夕方から開始ということもありアルコールも振る舞われ、国際学会らしい大変和やかな雰囲気で発表が行われていました。今回私は“Role of oxidative stress in acetyl salicylic acid (ASA)-induced small intestinal injury in rats”という演題でアスピリン起因性小腸粘膜傷害における酸化ストレスとの関係についての検討を発表させて頂きました。質疑応答では、同世代の研究者からアスピリンの特徴や投与方法などの質問をいただき、今後の課題や客観的な疑問点などを確認する事もできました。その他、自身の発表テーマにも関連する基礎分野の研究や最先端の研究についての演題を拝見することができ、大変興味深く参加することができました。残念であったのは、英語力の無さから上手く自分の言いたいことを相手に伝えられないことが多くあり、英語や知識の未熟さを痛感しました。今後は語学力の向上にも努めて、積極的に国際学会に参加したいと思っております。最終日に開催されたバンケットでは各賞の発表が行われました。幸いにも間嶋先生と私も「SFRR Asia Young Investigator Award」を受賞することができました。この場をお借りして発表の機会を与えて頂きました吉川先生、内藤先生、半田先生、そして海外発表未経験の私に色々とご教授、サポートを頂きました間嶋先生を始めとする関係者の方々に御礼申し上げます。次回の開催はポルトガルのリスボンとのことです。今後も日々の研究に努めて、是非またご報告できればと思います。ありがとうございました。

今年も開催されます

フリーラジカルサマースクール in 館山 2017
日　時:2018(平成30)年8月8日(火)－ 9日(水)
会　場:筑波大学館山研修所

＊詳細は、決まり次第、学会HPに掲載予定。

◇◇◇ 関連学会 開催案内◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

日本酸化ストレス学会東海支部　第6回学術集会

日　時:2018(平成30)年2月10日(土)午後(予定)
会　場: 静岡市産学交流センターB-nest 6F プレゼンテーションルーム
〒420-0857 静岡県静岡市葵区御幸町3番地の21 ペガサート6階
TEL: 054-275-1655
地図: http://www.b-nest.jp/map.html
実行委員長: 下位 香代子(静岡県立大学食品栄養科学部)
詳細は、決まりましたら随時学会HPに掲載予定。

8th Joint Meeting of Society for Free Radical Research Australasia and Japan
“Friendship makes all the difference”

会 期:2017年12月9日(土)～12日(火)
会 場:東京工科大学八王子キャンパス＋富士急ハイランドリゾート＆スパ
(山梨県河口湖)

会長: 東京工科大学　山本順寛

恒例の日本とオーストラレイシアの合同会議のお世話をさせて頂くことになりました. 最初の2日間は八王子の東京工科大学で, 後半の2日間は河口湖の富士急ハイランドリゾート＆スパで富士山と温泉を楽しみながらの開催です. そもそも本合同会議はRoland Stocker博士と小生が伊香保温泉で開催されていた中野稔先生を囲む会で発案したものです. 国際会議で共にやや人見知り傾向のある日本人と豪州人が胸襟を開いて切磋琢磨することに意義があると考えたからでした. したがって, 今回のタイトルは “Friendship makes all the difference”としました. Scientific Advisory Committeeを立ち上げ魅力的なプログラムを検討しています。若手研究者中心の, また中野先生を記念する, そして共催していただく日本コエンザイムQ協会関連のセッションなどを計画しています. 詳しくは近日中に立ち上げるHPをごらんください. 詳しくはHP(http://sfrra-j2017.org/)をごらんください. 多数のご参加をいただき, 学会を盛り上げていただけることを心からお願い申し上げます.

＊本会は、2017年度関東支部会年会　(第32回) を兼ねています。

次回 SFRR International

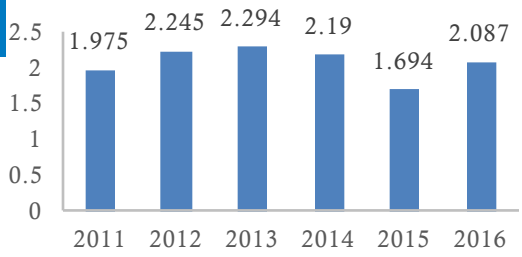
19th Society for Free Radical Research – International Biennial Meeting (hosted by SFRR-E)
Date : June 4 -7, 2018
Venue: Lisbon Conference Centre, Lisbon, Portugal
Further information: http://sfrri2018lisbon.organideia.pt

Call for Symposia now open!
15 May to 10 September

JCBN（学会オフィシャルジャーナル）情報
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)

オンラインによる投稿随時受付中！
Online SubmissionのURL
http://www.editorialmanager.com/jcbn/

Impact Factor: 2.087 (2016)



JCBN誌は、年6回（毎奇数月）に発行の英文雑誌です。
ページ掲載料には会員割引が適応されます。
是非、この特典をご利用下さい！
オンライン投稿の際に、必ず会員のチェックを忘れずにお願いします。

シリーズ：酸化ストレスのつぶやき　第13回

東村　泰希
（石川県立大学生物資源環境学部食品科学科）

私事であるが、この春から線虫（*C. elegans*）を使用した実験系を立ち上げた。実際のところは、“立ち上げた”とエラそうなことを言える様な立場には無く、非常に多くの先生方からのご助言ならびにご支援をいただきながら、ようやく飼育できる環境を整えることが出来た、という状態である。この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。今のところは*C. elegans*の扱いに習熟することを念頭におき、実体顕微鏡を用いた継代や卵の採取、凍結保存など、日々のメンテナンスで手一杯であるが、寿命の評価などいくつかの実験系を組み立てていこうと考えている。ということで、最近は専ら顕微鏡越しに線虫を眺めながら、その動きのしなやかさに魅了され、「ほ～」や「へぇ～」などぶつぶつと独り言を言いながら、時折にやりと微笑んでいる。傍から見ればかなり怪しい、変態である・・・。
先日、学内で新入生向けのオリエンテーションがあった。その一環として、キャンパスツアーなるものが企画され、「何か研究に触れるような機会を提供してほしい」と実行委員の学生から依頼を受けた。思い悩んだ末に私は、キャンパスツアーで巡ってくる新入生に*C. elegans*を見せてやろうと考えた。当日は朝から実体顕微鏡を準備したり、プレパラートを作ったりしながら、新入生はどのような反応を見せるだろうか、と想像を膨らませていた。私が所属する食品科学科はその性質上、女子学生の比率が高い。ということなので、おそらくは「キャー！」「気持ち悪い！」などの阿鼻叫喚が廊下に響き渡ることだろうと期待していたのだが・・・。実際のところは、興味深げに「へぇ～、これが線虫ですか」「生物の教科書で見たことあります」などといった、おもしろくも何とも無い、いや、微塵も臆することなく実に頼もしい反応であった。

*C. elegans*といえば、かの有名なSydney Brenner博士がアポトーシスの研究に用いたことで有名であるが、酸化ストレス学会においては老化との関連が大きいのではないだろうか。1953年にDenham Harman博士が提唱した「酸素が老化の原因である」という仮説が初めて証明されたモデル動物が*C. elegans*である。酸素（すなわち酸化ストレス）と老化を結びつける原因として同定された遺伝子がミトコンドリア電子伝達系複合体IIサブユニットのcyt-1（ヒトではコハク酸デヒドロゲナーゼ複合体サブユニットC（SDHC））である。このcyt-1に変異が生じた変異体のミトコンドリアからは活性酸素が過剰産生されており、結果として酸素濃度依存性に寿命の短縮が観察される。さらには、同様の変異を有するSDHC遺伝子は、細胞の腫瘍化や炎症病態の発症などと密接に関連することが明らかとなりつつある。このように、糸くず程度の大きさしかない一匹の虫で観察された現象が大きな広がりを見せ、研究の大流を生み出している。ロマンを感じずにはいられない。このように感傷に浸り、遠い目をしながら虫たちを眺める今日この頃・・・、やはり変態である・・・。

◇◇◇　SFRR International / Asia News ◇◇◇

SFRR Japan（日本酸化ストレス学会）は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

SFRR Asia　オフィシャルジャーナル
“Free Radical Research”
会員特別価格での購読受付中。

Impact Factor : 3.188 (2016)

是非多くの購読をお申し込み下さい！
FRRの出版社は、Young Investigator Award ならびにTravel Awardの協賛企業です。

SFRR International並びにSFRR Asiaの会長（President)は、現在日本酸化ストレス学会理事長でもある豊國伸哉先生が就任されています。いずれも、各々のsocietyで広く公募を募り、公平な選挙にて選出されております。また、AsiaのRepresentativeとして、豊國理事長並びに野口理事、更に、SFRR Asiaに於いては、事務局長(Secretary-general)を内藤副理事長、会計（Treasurer)を馬嶋理事が務め、会員数も最大数を数えています。
このように、国際組織においても、SFRR Japan（日本酸化ストレス学会）の認知度は低くはなく、会員各位の国際舞台での益々の活躍が期待されています。
SFRR Internationalでは、若手奨励賞の設定も各種行っており、トラベルアワードなど副賞の大きなものもありますので、是非、チェックして積極的にご応募下さい。

◇◇◇　事務局より　◇◇◇

今年も年次学術集会の開催に合わせて、ニュースレターをお届けします。来年度よりは学会が法人化される予定となりました。それに合わせ、種々事務手続きが変更となる可能性があります。会員登録情報を会員ご自身で加筆修正出来るようにオンラインシステムの導入なども検討しております。また、詳細が決まりましたら、お知らせさせていただきますので、ご確認の程、宜しくお願いします。現在のご登録内容は、ご希望、ご変更のご連絡が無い限り基本的に引き継がれます。特別な手続きは不要の予定です。
2017年度までの会費納入も早めにお済ませいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

・転居予定、卒業予定など、来年度以降の先の予定でも、連絡先が変更となる場合は、必ず早めに事務局宛にご連絡お願いいたします。
・退会希望については、早めにご連絡をお願いします。会費請求がなされて年度が始まってからの場合は、当該年度の会費納入が必要となりますので、ご注意ください。

スムースな移行のために、早め早めのご連絡にご協力いただけましたら幸いです。

その他、ご質問などございましたら事務局あてメールにてご連絡をお願いします。

♪♪♪